

IN FOCUS



世界とつながる国際理解教育

異なる文化や考え方を知って、
互いの違いを理解し、尊重する心を育む

1年生からネイティブ講師による英語の授業を行う本校では、言語を習得するための英語教育ではなく、子どもたちがさまざまな異文化体験を通して、世界とつながる国際理解教育に取り組んでいます。日本とは異なる言語や文化の中で暮らす同年代の子どもたちと交流することで、お互いの文化や考え方を知り、違いを理解し、より広い視野を持って、相手を尊重する心を育みます。4年生の探究科の授業ではカンボジアについて学び、シムリアップの小学生とオンラインで交流します。オーストラリアやイタリアの子どもたちとの交流、PTAが中心となって2011年から協力している「ランドセルは海を越えて」プロジェクトなど、体験活動をとても大切にしています。

体験活動を通じた国際理解教育



カンボジアとの交流

カンボジアについて調べ学習をしたり、現地で開発支援事業を行うNPOのスタッフや、「日東の懸け橋」を担うカンボジアの方々から話を聞いたり、シムリアップの小学生たちとオンラインで質問しあったり、4年生がカンボジアへの理解を深め、交流を続けています。学用品の支援物資を集め、募金活動も行いました。お互いを尊重しながら、自ら考え、行動する力が育まれています。



オーストラリア語学研修プログラム

夏休みに5年生が参加できるオーストラリア研修を実施しています。クイーンズランド州の小学校を訪れて、5・6年生と一緒に、英語や体育、日本語、音楽などの授業を体験したり、全校生徒の前で本校を紹介する英語のスピーチをしたり、ホームステイも経験します。英語圏の国で実際に「英語が使えた!」「英語が通じた!」という成功体験によって、子どもたちは大きく成長して帰国します。



アフガニスタンにランドセルを贈る

PTA活動の一環として、2011年から、ランドセル素材を製造するクラレ主催の「ランドセルは海を越えて」プロジェクトに協力しています。卒業生が使い終え、6年間の思い出がたくさん詰まったランドセルに未使用の学用品を詰め、紛争と混乱が続くアフガニスタンの子どもたちに贈っています。日本中から集められたランドセルが海を越え、現地の子どもの学びの喜びにつながっています。

-Pen Friends-

3年生以上の児童を対象としたペンフレズプログラムでは、授業で学んだ英語を使い、イタリアのローマにある語学学校の子どもたちと文通をしています。メールではなく、手紙だからこそ伝わる気持ちがあります。



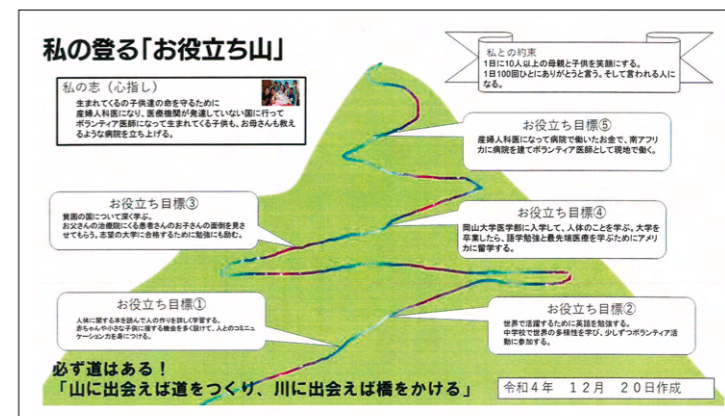
志の実現に向け、目標を具体的に書いた「お役立ち山」
児童の代表は「立志教育支援フォーラム」で発表



志教育

具体的に夢を持ち、目標を定め、
志を立てることを指導する「志授業」

毎年、6年生は自分の人生設計を考える「志授業」を受け、「お役立ち山」を制作しています。自分の夢や志について考える大切な時間です。子どもの非認知能力を高めるキャリア教育であり、道徳教育でもある志授業が、未来を生き抜くための指標となります。



平和教育

単なる知識に終わらず、
強く平和を希求する心を育てる

6年生は、平和学習のために広島を訪れます。事前学習でしっかりと準備をし、原爆ドームや広島平和記念資料館の展示物を実際に見て、広島平和記念公園の原爆の子の像の前で平和集会を開きます。問題を自分に引き寄せ、平和についての学びを深めています。

児童の感想文から

石碑がある建造物から原爆資料館に歩くときは、横の芝の青さがきれいで、こんないい所にひどいことが起きたのが信じられなかったです。資料館を見たときは、たった100mほどの通路が自分に訴えかけるもの、事の大きさに驚きました。手描きの絵のほうが写真よりも当時の様子がよくわかりました。今こんなに元気な人たちが、熱さ、苦しさを味わい、死んだり、後遺症に悩まされたりすることは、これからの人類の歴史の中で、絶対に刻まれてはいけないものだと思えました。

資料館を出た後は、お弁当を食べる時間でしたが、食べ物あまり喉を通りませんでした。その後も全然おなかの空きませんでした。僕は、今まで笑っていることを当たり前のことだと思っていました。昔の戦争があったころは、そんなことはできなかったのだからと思えました。そういうことを考えると悲しくなりました。

